



きじむんの **どぅ～ちゅいむにい～ 干支編**
第2回 午(うま)

キーワード：馬 午 馬術 馬勝負 神当流

ハイサーイ&ハイターイ キジムンヤイベーン！（やあ、きじむんだよ～）いよいよゴールデンウィーク！ 皆さんの予定はばっちり？ 気を付けて楽しんでね！ さて、今月は馬(午)の話題だよ～。

・琉球人と馬とのかかわり

馬は古くから人々とのかかわりの深い動物の一つです。特に琉球では明朝時代の中国に硫黄とともに琉球産の馬が朝貢品として贈られていました。また、年中行事でも登場し、「馬勝負（ンマスーブ）」と呼ばれる競馬が各村で行われていました。琉球大学構内、農学部駐車場の付近のループ道路(約 200m)は千原馬場という馬場の跡地です。



千原馬場跡（琉球大学構内）

・馬術に関する資料



宮良殿内文庫蔵 No.136 「馬絵」より



宮良殿内文庫蔵 No.209 「七つの手綱」より

近世琉球において馬術は士族のたしなみの一つとされていたようです。向象賢しょうじょうけん（羽地按司朝秀）が摂政を務めたころに布達した文書集である『羽地仕置』の中に、若者が学ぶべき諸芸の一つとして「馬乗方之事」うまのりかたのことが挙げられています。『琉球国由来記』巻4の「騎馬」の項によると、琉球における馬術は日本から伝わったものであることが記述されています。琉球大学附属図書館宮良殿内文庫には、青毛や栗毛のような毛色の馬や、薩摩藩士が馬に乗る様子を描いた『馬絵』、馬術用語を列挙した『七つの手綱』の資料があります。うち、『七つの手綱』は八重山の石垣家文書『馬稽古聞書』に詳しく述べられています。それによれば、「七つの手綱」とは日本馬術の流派の一つで、特に悪馬・難馬を矯正する騎法で知られる「神当流」しんとうりゅうの技術で、馬の癖や性質に応じた乗馬方のことを指しています。

宮良殿内文庫蔵『馬絵』で描かれている薩摩藩士の颯爽とした騎馬姿をぜひデジタル・アーカイブで見比べてね！（CT）

参考文献：池宮正治「文学・芸能関係資料について」（『昭和五十五年 沖縄県文化財調査報告書 第三十五集 八重山諸島を中心とした古文書調査報告書』1981年、沖縄県教育委員会）、「羽地仕置」（『沖縄県史料』前近代1、1981年、沖縄県教育委員会）、「八重山資料集Ⅰ」（『石垣市史』、1995年、石垣市史編集委員会）、外間守善・波照間永吉編著『定本 琉球国由来記』（2011年、角川学芸出版）、きじむんのどぅ～ちゅいむにい～ 2014年度版 第5回

